

国労東日本 第33回定期大会開催!

職場改善の取り組みを通して 国労への信頼を広げる運動作りを!

大会は、矢部副委員長の司会で始まり、議長に田崎代議員（盛岡）、副議長に宇佐美代議員（秋田）を選出し、議事に入りました。

開会にあたり、大沼委員長が4点にわたり挨拶しました。その後、来賓挨拶、弁護団報告、国労本部からの挨拶を受けて議題に入りました。



議長 盛岡地本 田崎代議員
副議長 秋田地本 宇佐美代議員

経過報告では4名の代議員から発言を受け、答弁・承認されました。その後、機関紙及び組織拡大目標の表彰を行い、一日目の議事を終了しました。

二日目は運動方針（案）に対する討議で議事を再開し、16名の代議員からの発言を踏まえて、伊藤書記長より集約答弁がされ、全体の拍手で承認されました。

その後、役員改選に伴い新執行部が選出され、全代議員の満票でスト権を確立。その後、大会宣言（案）を採択しました。

最後に新執行部を代表して、大沼委員長の団結がんばろうで大会を終了しました。



国労東日本本部は、8月23日～24日に第33回定期大会を、東京・芝浦において開催しました。

大会は代議員の真摯な討論から、運動方針と「労働条件に関する協約」改訂要求を確立しました。役員改選では、新執行部（別掲）を選出し、「大会宣言」を採択し、終了しました。

今号は、大会特集号【その1】として報告します。（発言は次号掲載）

2点目は安全・安定輸送の確立と職場労働条件改善の取り組みについてです。

会社は「さらなる人口減少や自動運転の実用化等の厳しい経営環境の変化に対応するため」として、昨年7月にはグループ経営ビジョン「変革2027」を策定。その実現に向けた施策等の風が、この一年、各系統で吹き荒れました。現場では、輸送障害全体の発生件数では減少しているものの、部内原因による輸送障害は増加し、鉄道運転事故には至らないが「注意を要する事象」の「繰り返し発生している事象」の増加や、グループ会社を含めた労災死亡事故が残念ながら発生しています。安全は経営のトッププライオリティーであり、信頼の基盤です。労働組合としても徹底して求めてまいります。

会社は、大量退職の中での急激な世代交代、技術継承・人材育成が求められています。しかし、会社が進める技術革新と体制見直しのみを優先する「変革」には、現場が追いついていない現実があり、労働組合がモ

ノを言っていかなければなりません。安全・安定輸送の確立に向け「仕事・安全総点検」運動を強化してまいります。

3点目は、今年も約600事業所中約150職場で国労組合員が過半数代表者選挙に立候補しました。組合員数の減少や社友会が2万人を超える厳しい環境の中での取り組みでしたが、昨年を上回る11職場で代表になることが出来ました。また、代表にはならずとも、組織以上の支持を得、安全衛生委員に指名された職場も出ています。グループ会社でも組合員の奮闘により16職場で国労が代表になることが出来ました。

東日本本部としてこの間、代表者会議等で「選挙がただ単に目的ではなく、働きやすい職場にしていこう」と、その取り組みの先に労働組合への信頼を勝ち取り、組織拡大へ結びつけること」が真の目的であると思いを統一してきました。

こうした中で、7月13日には「社員代表者交流会」を開催し、取り組みの進んでいる職場の報告を全体で共有してきました。現場に依拠し、粘り強く仲間を取りあげ、労働組合の必要性を伝えている代表者の皆さんの姿は、まさに本来の労働組合運動であり、今後の国労組織の広がりや展望を確信させるものです。

4点目は政治課題についてです。

第25回参議院選挙では、与党で過半数を上回るもの改選前から6議席を減らし、改憲勢力では3分の2を割り込みました。32の一人区では、野党共闘が接戦を制し、10議席を獲得しました。

東日本本部は、一人区では野党共闘を支援して、比例区選挙においても立憲野党の候補者を中心に、地方ごとに選挙戦を戦ってきました。奮闘された組合員の皆さんに敬意を表します。

憲法9条に自衛隊を明記する安倍・自民党の目論見は大きく後退しましたが、予断を許す状況にはありません。今後は立憲野党が連携し、改憲議論自体に終止符を打っていかねばなりません。

引き続き、護憲、人権、平和、環境を守る政治勢力の拡大に向けた各選挙戦の取り組みと、各地での護憲・平和運動に積極的に参加することとします。

結びに、組織の展望を切り開くための環境作りは着実に前進しています。後は、職場が抱える問題を仲間と一緒に考え、悩み、職場改善の取り組みを通して国労への信頼を広げる運動作りになります。成果や教訓、経験をお互いが学び合える真摯な討論を、各代議員の皆さんに要請し、執行委員会を代表しての挨拶にさせていただきます。

まず1点目は、組織の強化・拡大についてです。

昨年の東労組の瓦解で労働組合への信頼が大きく失墜した職場では、社友会の組織化もあり、以前にも増して組織拡大は厳しいものとなりました。その中でも拡大は、加入を呼びかけた国労組合員一人ひとりへの信頼と期待の表れを証明しています。また、拡大の特徴は、旅客、貨物会社共にJR世代がJR世代を加入させるという、JR世代が運動をけん引し始めている点を全体で確認したいと思っています。

2月の拡大委員会では、女性部から「あと5年しかないではなく、5年もあるのです」「出来る事は、まだまだたくさんあります」といった特別発言がありました。彼や彼女らは有言実行しています。国鉄世代の組合員の皆さん、もうひと踏ん張りお願いします。

第88回定期全国大会で本部が提起した「5年ビジョン」は、JR世代へ財政・組織・運動を引き継いでいくための現状と課題を示したものであり、その課題の一つを方針化し、全国大会で乗り越えることが出来ました。今後も克服すべき課題を国労の総団結で乗り越え、組織の強化・拡大を進めながらJR世代へバトンタッチしていくこととします。

委員長の挨拶 要旨
（全文はHPに掲載）
環境作りは着実に前進！

委員長の挨拶 要旨
（全文はHPに掲載）
環境作りは着実に前進！



（組合員の購読料は組合費に含まれます）
港区新橋5-15-5 交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 大沼 元
編集責任者 常盤達雄

No. 822 定価 20円
2019年 9月10日

第33回定期大会
特集号その1

QRコードからでも閲覧できます
<http://www.e-nru.com/>

